静岡県立大学グローバル地域センター

Global Center for Asian and Regional Research, University of Shizuoka

スピーカー・ パネリスト

平 東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授

長尾 年恭 | 東海大学海洋研究所長・教授

関谷 直也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授

岩田 孝仁 |静岡大学防災総合センター長・教授

外間 達朗 静岡県危機管理監

田宮 健 静岡広野病院長

池谷千尋 地ちゃん家・ドリームケア代表取締役

柚城 ── 喜 │ 静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括・特任准教授

ワークショップ

地震予測の現状と 防災情報を生かすには

日時

2018.2.2 金 開場

13:00-16:30 開場:12:30

参加料 無料(要事前申込) [定員 200 名] 会場

しずぎんホールユーフォニア

〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町 1 番 13 号アゴラ静岡 8 階 (静岡銀行呉服町支店ビル)

- ※会場への詳しいアクセス方法は、ウェブサイトをご覧ください。 (http://www.agora-sgs.jp/euphonia)
- ※公共交通機関をご利用ください。

主催|静岡県立大学グローバル地域センター

共催|静岡県 静岡大学防災総合センター 東海大学海洋研究所 静岡新聞社・静岡放送 (順不同)

お問合せ先|静岡県立大学グローバル地域センター 〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠 3-6-1

もくせい会館2階 http://global-center.jp

TEL 054-245-5600 FAX 054-245-5603 Eメール:glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

甚大な被害を及ぼした 1944 年の東南海地震、1946 年の南海地震から 70 年余、東海地震が未だ発生ししておらず、南海トラフ全体での大規模 地震に、世間の関心は高まっています。

このような中、防災の動きとしては、2017年11月より東海地震の警戒宣言 発令が凍結され、現在の科学的知見に基づく、南海トラフ地震に関する情報 が新たに出されることになりした。この情報をもとに防災対応を再考する 必要があります。

また研究については、深部低周波微動に代表される新しい現象が発見 され、またプレート運動のゆらぎ等も計測できる様になり、地震現象の 理解が大きく進みました。特に、南海トラフで発生する地震の震源域の

プログラム

13:00 〇 挨拶

楠城 一嘉 | 静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括・特任准教授

第1部

地震予測の現状

特別講演1

平田 直 東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授

長尾 年恭 | 東海大学海洋研究所長・教授

関谷 直也 | 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授

第2部 防災情報を生かすには

詩別講演 4

岩田 孝仁 | 静岡大学防災総合センター長・教授

パネルディスカッション

パネリスト

平田 直|東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授

長尾 年恭 | 東海大学海洋研究所長・教授

関谷 直也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授

岩田 孝仁 |静岡大学防災総合センター長・教授

外岡 達朗|静岡県危機管理監 健|静岡広野病院長

田宮

池谷 千尋 | 池ちゃん家・ドリームケア代表取締役

コーディネータ-

楠城 一嘉 | 静岡県立大学グローバル地域センター地震予知部門総括・特任准教授

16:25 〇 終わりに

長尾 年恭 | 東海大学海洋研究所長・教授

広がりや再来周期に多様性があることが判明しました。さらに、大規模地震 につながるおそれのある異常な現象がケースごとに整理でき、一部のケース では、通常より地震の発生の可能性が高まっている等の評価もできるように **なりつつあります**。

ただし、こうした科学的知見は、日常生活に馴染まない為、現状のまま 情報として受けても対応にばらつきが生じる可能性があります。地震予測 の現状をしっかり理解し、防災情報として最大限に生かす検討が必要です。

そこで、ワークショップ「地震予測の現状と防災情報を生かすには」を 開催します。南海トラフ地震に直面する我々が、防災情報に基づく対応の 方向性について共有認識を図り、共に防災力強化を目指しましょう。

(敬称略 五十音順)

池谷 千尋

池ちゃん家・ドリームケア代表取締役。 全国訪問ボランティアナースの会「キャン ナス」メンバーとして、東日本大震災の被災 地支援を経験。高齢者を対象にデイサー ビスや小規模多機能ホームなどを展開し つつも、利用者・社員の命を守ることを モットーとして、防災環境作りを進める。

岩田 孝仁

静岡大学防災総合センター長・教授。南海 トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災 対応検討ワーキンググループメンバー、南 海トラフの地震観測に基づく新たな防災 対応中部検討会メンバー、日本災害情報 学会理事などを務める。元静岡県危機管 理監。

関谷 直也

東京大学大学院情報学環総合防災情報研 究センター特任准教授。静岡大学防災総 合センター客員准教授。自然災害、原子力 災害などにおける災害時の心理、災害時 の情報伝達などを社会心理学の視点から 研究する新進気鋭の若手研究者。

健 田宮

静岡広野病院長。地域包括ケアシステム の構築に向けた医療と介護の療養型病院 の役割に加えて、地域の防災拠点の役割 を担うべく、地域住民と連携しながら、津 波避難ビルとして病院を活用する。

外岡 達朗

静岡県危機管理監。南海トラフの地震観 測に基づく新たな防災対応中部検討会メ ンバーなどを務める。「命」を守る危機管理 を県政の重要課題の第一に掲げて、静岡 県民の安全・安心を確保し地域防災力の 充実を図る。

長尾 年恭

東海大学海洋研究所長•教授。同研究所地 震予知・火山津波研究部門長を兼務。日本 地震予知学会理事・副会長、レジリエンス ジャパン推進協議会理事、南海トラフ沿い の大規模地震の予測可能性に関する調査 部会メンバーなどを務める。

楠城一嘉

静岡県立大学グローバル地域センター地 震予知部門総括•特任准教授。静岡大学防 災総合センター客員准教授。静岡県石油 コンビナート等防災アセスメント調査技術 検討会メンバーなどを歴任。

平田

東京大学地震研究所地震予知研究セン ター長・教授。地震調査研究推進本部地震 調查委員会委員長、地震防災対策強化地 域判定会長兼南海トラフ沿いの地震に関 する評価検討会会長、南海トラフ沿いの地 震観測・評価に基づく防災対応検討ワー キンググループ主査などを務める。

グローバル地域センター|地震予測の現状と防災情報を生かすには(2月2日)|参加申込書

下記の申込書に必要事項をご記入のうえ、1月29日(月)までに、FAXまたは郵送にて「グローバル地域センター」までお送りください。 ホームページからもお申込みいただけます。なお、定員となり次第、締め切ります。

FAX•郵送先

〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠3-6-1 もくせい会館2階 静岡県立大学グローバル地域センター TEL:054-245-5600 FAX:054-245-5603

http://global-center.jp Eメール:glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

フリガナ						
氏 名						
会社•団体名						
	Ŧ	TEL:			FAX:	
参加確認書 [※] の送付先						
			ご勤務先 ・	ご自宅		○をお付けください
Eメールアドレス						

※順次、参加確認書(はがき)をお送 りしますので、ご住所を忘れずに で記入ください。で記入いただき ました個人情報につきましては、 静岡県立大学が開催する講演会 のご案内にのみ使用いたします。